お着物たち

タロットカードと着物の世界へ、ようこそ

この本は、従来のタロットカードの意味を、着物の種類にあてはめて、着物とタロット、両方の知識を楽しく学んでいただけるように書いたものです。

私は、着物屋の娘として生まれ育ちました。小さなころから反物に囲まれて暮らしてきたので、自然と、和の美しさに親しむことができたのです。「着物を着たお芝居をしたい。」いつしか、そんな夢を抱くようになり、時代劇の舞台女優としてデビュー。その後、縁あって、声優の世界へ。現在、「寺瀬今日子」という芸名で、声優として活動しています。そして、趣味で始めた占いも、占い師「富士川碧砂（ふじかわ みさ）」として、プロデビューする機会をいただくことができました。

声優という芸事と、占い……この２つの世界を学ぶ中で、両者には多くの共通点、いえ、正直言うと、ほとんど同じと言っていい根幹の精神、スピリットがあるということに気がつくようになりました。それは、「自分は、上から得たエネルギーを地におろす、一本の導管でなければいけない」ということです。一本の導管になるためには、まっすぐな、くせのない、身体と意識を獲得する必要があります。そして、そのために学ぶべきもの、それこそが、私が幼い頃から触れてきた着物の世界にあるのです。着物の世界は、呼吸法、立ち居振る舞い、そして深層意識にいたるまで、「スピリチュアルの精神」を手に入れる秘訣があふれています。さらに、着物には、魔を除け、吉を得る要素があるということも、ぜひお伝えしたいと思います。この本を読んで、タロットと着物の知識、そして、開運のヒントを得ていただけたら、というのが私の願いです。

私の父方の祖母は、霊能者でした。祖母は、心臓発作で黄泉（よみ）の国まで行きながら、この世に返り、その後、霊能力を得たと聞いています。実は私も、40 歳の時、大病から臨死体験をし、その後、占いなどの「目

に見えない世界」に興味を持つようになりました。私が、芸事と占い、そして着物という３つの世界をミックスしてお伝えする立場になったのは、自分で選んだ道であるようで、何かに導かれた道とも思えます。

私自身、現在も、自分を「上から得たものを伝える、まっすぐな導管」にするべく、勉強中の身です。この本を書くきっかけを与えてくれたのは、占い、そして精神世界の師である松村潔氏の、「本を書こう」という提案です。そして、無謀にも、その提案にのってしまった私を助けてくれたのが、今回、タロットカードの絵を描いてくれた吉田結妃（よしだ ゆき）さんです。

カードは、普通のタロットカードとして使えるだけでなく、何か迷ったとき、一枚カードを引いて、「お着物たろっとからの一言」の項を読んでいただければ、あなたへのメッセージをお伝えします。また、「対応する色」の項を読んでいただければ、お着物の色合わせを決める参考にしていただけます。さらには絵葉書として、はたまた大人の塗り絵としても使っていただけるという、たいへんお得なものとなっております。

どうぞ、この本で、着物の世界とスピリチュアルな世界の、よき使い手となっていただけますように……。

お着物開運占い師
富士川碧砂
（ふじかわ みさ）

お着物たろっと　目次

タロットカードと着物の世界へ、ようこそ.....6

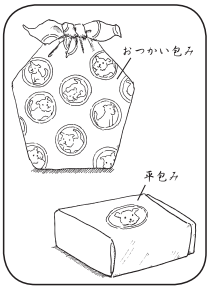
目次

零　愚者（風呂敷）.....10
一　魔術師（道具）.....12
二　女教皇（付け下げ）.....14
三　女帝（訪問着）.....16
四　皇帝（座布団）.....18
五　教皇（色留袖）.....20
六　恋人（振袖）.....22
七　戦車（普段着）.....24
八　正義（帯）.....26
九　陰者（黒留袖）.....28
十　運命の輪（季節に合わせた着物）.....30
十一　力（八掛け）.....32
十二　吊られた男（帯留め）.....34
十三　死に神（喪）.....36
十四　節制（色無地）.....38
十五　悪魔（帯揚げ、帯締め）.....40
十六　塔（織りの着物）.....42
十七　星（クリーニング）.....44
十八　月（保管）.....46
十九　太陽（子供の着物）.....48
二十　審判（お直し）.....50
二十一　世界（お出かけ）.....52

お着物スピリチュアルスポットめぐり.....56
お着物たろっとの使い方.....60
参考図書.....62
プロフィール.....64

零　愚者

タロットカードとして占う時の意味



【正位置】

安定した場所を離れて、新天地へ向かう。ゼロからの出発。自由。なにものにも縛られない状態。

【逆位置】

見通しがないままスタートする。計画のリスクや、マイナス面を考える必要。軽率。無職。無謀。

【対応する色】白

【お着物たろっと】に当てはめると…≫ 風呂敷

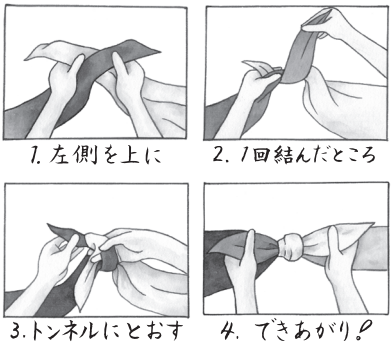
風呂敷という、四角い一枚の布には、無限の力があるように思えます。どんなものでも包んで、持ち運びができるようにする柔軟な対応力。そして、包まれたものを、より大切なものへと変容させる力。和の文化は「包む文化」とも言えます。着物は、身を包むものです。包まれた人は、それまでとは違う存在に変容します。「包む」という行為によって、包まれるものに敬意を払い、神聖なものへと変容させる……。そんな力が、風呂敷にはあるのです。

さて、風呂敷の包み方の基本は、「おつかい包み」です。この包み方には、「真結び」という結び方をします。これは、持つときは決してほどけないのですが、あるコツで、するりとほどけてしまうという、ちょっとマジックみたいな結び方。この結び方を基本に、「蝶結び」や「ひとつ結び」などの結び方のパターンを覚えると良いでしょう。

そして、包み方は、「おつかい包み」、その結び目を隠す「隠し包み」、結ぶことなく布をかぶせていく「平包み」、お香典やご祝儀を包む「ふくさ包み」などが代表的なものです。

手土産を包む、ご祝儀を包む、着物を包む。そして、広げれば、タロットの敷物として使えるので、タロットカードを風呂敷で持ち歩くのもいいかもしれませんね。風呂敷には、絹、化繊、木綿など、どんな生地を用いてもかまいません。洋服の生地などを使って、オリジナルの風呂敷を作るのもかわいいですね。

真結びの結び方



どなたかに物を差し上げるときには、どうぞ風呂敷で包んで持っていってください。あなたがその方を思う気持ちが風呂敷に大切に包まれ、その方の心を揺さぶる、力あるものに変容して届けられることでしょう。

お着物たろっとから、あなたへの一言

あなたは、今、形のないものを手渡されました。
どう使うかは、あなたの自由です。
もしかしたら、失敗してしまうかもしれません。
でも、手渡されたときから、物語は始まるのです。
たとえ、厳しい道のりでも、
楽しんで、工夫しながら進んでゆけば、
今まで自分が見てきた世界とは違う景色を、
手に入れることができるでしょう。

魔術師

タロットカードとして占う時の意味

【正位置】

今まで勉強したことを生かす。自分の才能、技能を使って物事を始める。新しい機会。積極性。

【逆位置】

自分の力を過信する。真摯に向き合う姿勢に欠ける。技術不足。新しく事を始める時ではない。

【対応する色】ベージュ

【お着物たろっと】に当てはめると…≫道具

着物を着るには、まず足袋をはき、肌襦袢、裾除けを付けます。

そして、紐と伊達締めを使って、長襦袢、着物を着ます。

次は帯です。帯揚げ、帯締め、紐、おたいこの枕。これらで、帯を結びます。

最後に、草履などの履きものを履いて、出来上がり。

あとは自由に、風呂敷や、バッグ……その他、小道具で色づけしていきます。

さて、着物は、布で身体を包んでいくものです。そのとき、紐を使って、体に固定します。その紐を結ぶ位置、ここが、西洋とは違いのあるところです。男性も女性も、ウェストではなく、腰骨のあたりで、ぎゅっと紐を結びます。ここは、第2チャクラの位置、つまり丹田です。この丹田

のところに結んだ紐をゆるませない、つまり、着物を着崩れさせないために、「昔の日本人が行っていたのではないか」と考えられる呼吸法があります。

それは、「密息」という呼吸法。私は、虚無僧尺八の中村明一氏より、この呼吸法を学んでいます。密息は、腹式、あるいは、胸式呼吸のように、体に動きが生じることがほとんどありません。吸うときも吐くときも、腰紐の位置を、押し出すようにします。ですから、お腹は出っぱったままです。体の他の部分には力をいれません。下っ腹、つまり丹田と言われる部分にある深層筋を使って行う呼吸法です。

この呼吸法をマスターすると、人前で緊張することが少なくなります。重心を下に置き、上半身をリラックスして行う呼吸法なので、息があがることがなく、体の軸もぶれません。「この呼吸法を、着物を着ていた頃の人々は自然と行っていただろう」と中村氏は言います。着物は、丹田の力を強くする衣服なのです。丹田、つまり第2チャクラは、気力、やる気の源と言われています。着物を着て、人生をパワーアップしてくださいね。

お着物たろっとから、あなたへの一言

準備が整いました。
あなたは、さまざまなことを学び、情報を得て、
自分を磨き、高めてきました。
いよいよ、それを、地上で実現するときがきたのです。
積極的に、実行してください。
じぶんなりの工夫をして、展開するとよいでしょう。
そして、なによりも、誠実な態度で臨みましょう。
その時、あなたの「最初の一歩」に光が注がれます。

二　女教皇

タロットカードとして占う時の意味

【正位置】

上位の存在からのメッセージを受け取る。直感力。教育を受ける。仕事のアドバイスを得る。

【逆位置】

遊び心の欠如。感情をコントロールできず爆発させる。厳しい態度で人に接する。クール過ぎる。

【対応する色】青

【お着物たろっと】に当てはめると…≫付け下げ

付け下げの柄はすべて上をむいています。反物の状態で柄を描いているからです。仕立て上がったときに、衿と肩、膝の前と後の模様がつながっていません。縫い目に柄がかからないことも特徴です。訪問着より簡略化した、気軽なよそゆき着です。着物屋さんでは、くるくると巻かれた反物の状態で売られています。価格も手ごろで、お求めやすい着物です。

付け下げは、訪問着と小紋の、ちょうど中間の位置にある着物であることから、最近では、裾の模様がつながった「付け下げ訪問着」や、小紋柄をとりいれた「付け下げ小紋」なども生まれ、利用範囲が広い着物として、重宝されています。しかし、その反面、帯や小物などを、ＴＰＯに合わせて考えなければ場違いなものになるというリスクもあります。コーディネートの知識が必要とされる着物とも言えるでしょう。金糸銀糸を使った豪華な袋帯を合わせれば、格式の高い場所にも来ていけます。おしゃれな名古屋帯を結べば、お茶席などにぴったりの一着になるでしょう。

さて、着物が様になる身体というのは、どういうものだと思いますか。それは、ずんどうの身体です。キュッと細いウェスト、大きな胸、上向きのヒップは、着物にはマイナス要素となります。着物を着るときに、タオ

ルやガーゼなどで補正をした経験がある方もいらっしゃると思います。着物の身体は、一本の柱のように、まっすぐなものが望まれるのです。

この一本の柱の形というのは、上のエネルギーを下に伝えるものです。神の依り代として働く形なのです。たとえば諏訪大社の御柱にみられるように、一本の柱が神社のご神体であるところは、日本にはたくさんあります。易で使う筮竹も、立てた棒に、神からのメッセージを降ろすという考え方が根本にあるのです。まっすぐ立つ棒状のものは、神霊の宿るシンボルなのです。

着物をお召しになるときは、頭頂にある第一チャクラから受け取った霊的なエネルギーを、まっすぐ地に向けて通すように意識してみてください。目に見えない情報をキャッチするトレーニングになります。まっすぐな身体と意識で付け下げを着て、芸術に触れる場所に出かけてみる。それは、あなたの感性を、よりシャープに、磨きのかかったものにしてくれるでしょう。

お着物たろっとから、あなたへの一言

あなたは、今、すべてに通じる扉を前にしています。
その扉を開ける鍵は、直観です。
自分で、ふと感じとったことを、信じてみましょう。
自分を信じられなくなると、混乱して気持ちが動揺します。
自分は、何をしたいのか、本当の望みは何なのか。
それが分かった時、扉は開きます。
そして扉の向こうに、目指すべき道をみつけたら、
そのために、学ぶ努力を惜しまないでください。